

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472601937	事業の開始年月日	平成15年5月1日
		指定年月日	平成15年5月1日
法人名	社会福祉法人幸会		
事業所名	グループホーム幸園		
所在地	(252-0302) 神奈川県相模原市南区上鶴間6丁目1番地30号		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 27名 ユニット数 3 ユニット	
自己評価作成日	令和5年5月	評価結果 市町村受理日	令和5年11月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

3ユニットとのグループホームとして開設して20年となりました。大勢の方々に支えられて今日にいたっております。10年以上の入居者様も穏やかに生活されております。団塊の世代の入居者様も数名おり今後の介護のあり方を改めて勉強して行きたいと考えております。事業所としては職員の研修に力を入れており、毎月、テーマを決めて学習を行っております。認知症介護の基本を大切に〔その方の想いや行動を止めない介護〕をスローガンとして支援しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年9月30日	評価機関 評価決定日	令和5年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小田急線「相模大野」駅から徒歩10分程のところに立地しています。鉄筋コンクリート造り5階建ての地下2階に駐車場があり、地下1階にデイサービスを併設しています。地上3階の各階に、1ユニットごとに分かれた、3ユニットの事業所です。

<優れている点>

その人らしく穏やかに生活ができる環境作り。そのために「止めない介護」を目指します。』という事業所の理念のもと、介護福祉士等の資格を取得している多数の職員が、スキルを活かしてサービスを提供しています。道路向かいにある同一法人の特別養護老人ホームと合同でBCP（事業継続計画）に関わる災害訓練を行い災害に備えています。火起こしや貯水槽の水の汲み上げ、密閉袋を使ってのご飯炊きの実践をし出来栄を検証しています。防災委員会を中心に役割分担をして、担当が変わっても困らないよう備えています。各ユニットの外周に、ウッドデッキが施され、歩行訓練や外気浴を行うとともに、庭の桜やベランダの植栽で季節を感じられるようにしています。

<工夫点>

決められた年2回の防災訓練では、習得に個人差が見られた事をきっかけに、毎月、ユニットごとに避難訓練を行っています。新入職員は、必ず参加できるよう日程を調整し、各ユニットの入り口付近に、防災頭巾やヘルメットを備えています。また、緊急時の情報提供に役立つよう「生活状況表」は、手に取りやすい場所に置いています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム幸園
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念として「その人の想いや行動を止めない」を掲げ穏やかな日常であるよう介護を行っております。ユニット会議等で常に原点に立ち返る事ができるよう話し合います。	法人の理念を基に「その人らしく穏やかに生活ができる環境作り。そのために「止めない介護」を目指します。」を掲げています。事業所内への掲示やユニット会議で話し合い、理念を共有しています。多様性を認識し、自由に動いてもらうことを大切にケアをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍において地域との交流は進みませんでした。自治会より要請があり七夕の短冊に利用者の願いを書き商店街に飾って頂きました。大変好評でした。	自治会から要請があり、商店街に飾る七夕飾りの短冊を作り提供しています。地域の文化祭や防災訓練への参加、傾聴などのボランティアの受け入れ、保育園児との交流を徐々に再開し、コロナ禍以前のように、地域との交流を深める意向です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学者の対応時、ご家族からの相談に乗ったり、サービスの利用などその方にあった施設の提示など行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の御家族、自治会長、民生委員等の出席を頂き、各ユニットからの状況報告や利用者の入退所報告、職員の入退職等の報告を行い参加者からのご意見、助言等頂いております。	運営推進会議は、奇数月に開催しています。自治会会長・民生委員・相模原市南高齢者相談課の職員・利用者家族の代表・事業所の職員がメンバーです。利用者の暮らしぶりや行事の報告時に意見などを聞いて話し合っています。	コロナ5類移行後の委員会への参加者は、家族が主になっています。メンバーの行政職員や地域の方々に参加の機会を増やしてもらえるように工夫することが望めます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム部会で行政と年1回グループホームの現状、要望等を話し合う機会があり管理者が参加しております。市内には多くのグループホームがあり待機者ほとんどいない現状がある。又職員の募集をしても応募が無い等厳しい現実を伝えています。	相模原市福祉基盤課など、行政とは事故報告書や運営推進会議の報告書の提出で連絡をしています。相模原市内のグループホームが参加している「グループホーム部会」で行政と要望などを話し合う機会があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を中心に3ヶ月に1回の会議を開催し、身体拘束の兆候は無いか入所者の状態を報告しながら確認を行っています。各ユニットでは拘束委員会が中心になって年2回のマニュアルでの確認、具体的拘束例等で研修を実施しています。	身体的拘束委員会を実施し、年間計画に基づいて研修を開催し、離設を望む利用者の対応として、行動を止めずについて行く等、身近なことを話題にして身体拘束等をしないケアに取り組んでいます。スピーチロックについても、理念にある「止めない介護」を念頭に置き、サービスを提供しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会はニュースになった虐待の事例の検討や日常介護の中での兆しが無いか、どんな時にケアへの影響が出るのか等年2回の園内研修で職員に理解と周知を行っています。	虐待防止委員を中心に、虐待防止のための対策を検討する委員会を開催しています。年間計画に基づいて高齢者虐待に関する研修を実施しています。例えば、井でならご飯を食べる人の対応事例で「井の使用は虐待か」等を学び、虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者があります。後見人との連絡をスムーズにできるよう日頃より気を配っております。運営推進委員会で高齢者相談課の肩から成年後見制度について学ぶ機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	当グループホームの方針、職員配置状況、生活介護対応等細部まで説明し納得していただきます。改定の際には書面にて説明し同意を頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部評価の家族アンケートを参考に改善した点。預り金の内訳を毎月確認していただくようにしました。それまでは入金時のみの確認だった為。コロナ過の際は郵送にて実施し現在は面会時に行っております。	利用者の暮らしの中の写真や行事の様子などを掲載したユニットごとの新聞を発行しています。郵送時に家族に利用者の様子を伝えていきます。家族から「預かり金は、残高金額のみならず明細も知りたい」との要望があり、面会時に確認を行い反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回、法人で人事考課が実施されている。その際各自が法人への要望等を記入することができる。事業所への要望等は、毎月のユニット会議で要望事項を伝える事ができる。事例、公休、有休の取り方、人員不足を総務に訴え説明を聞いた。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人で人事考課を年2回実施しています。チャレンジシートでは各自が年間の目標を立て、達成されると評価され昇給、賞与に反映されます。介護福祉士、介護支援専門員の資格取得者にはそれぞれ資格手当がつき、職員は資格取得を目指しています。	年2回人事考課を行っています。管理者は職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係の把握に努めています。管理者は、受験資格に該当する職員に声をかけ取得を勧めしており、多数の職員が介護福祉士などの資格を保持しています。資格取得により手当が支給されることもあります。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ過の影響でウェブで研修に参加することが出来ています。また、本年は実践者研修に年3名の受講を計画し現在2名が終了予定です。無資格の新入職員は初任者研修を受講しました。現場では各シフト毎に新人を育てるし仕組みになっています。	新人職員の育成は、OJT体制をとりシフトごとに回数を決め丁寧な指導を心掛けています。外部・内部研修にかかわらず研修受講後は、研修報告書の作成と共に受講できなかった職員にも資料配布などを行い、研修内容を職員間で共有しています。無資格の職員は、義務化の基礎研修ではなくスキルアップのために初任者研修の受講をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内の法人で組織されたグループホーム部会があり年4回の部会を開催しています。本年は介護職員の確保、入所者の確保について意見交換がありました。他、施設の状況聞き、参考にしたい事や助言を聞くことができます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	御家族、ケアマネジャー、利用されているサービス事業者から情報収集を行い不安のない生活を提供できるよう職員間の連携を取りながら本人と向き合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	在宅での生活が困難になった状況を聞き、グループホームで生活することがご家族の負担軽減になり、利用者とも良い関係を築き上げていける事など話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者との会話を重要視しており会話の中から今、何を必要としているのかを見極めてカンファレンスを行い対応を考えていくシステムになっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事を日々の生活の中で見極め、共に暮らし、助け合っていく関係を作りあげていきます。その人が出来る手伝いをそれぞれに見定めて作業の分担を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ過では面会時の対面であったが5類になり外出、外泊が可能になったためご家族との関りも多くなり、共に過ごす時間が多くなっています。月に2回、自宅で食事を楽しむ時間を設けている方もいます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日々の活動や行事の様子を動画でご家族に送って感想を頂いたり、外出先でいつもの店で食事をしたり出来ています。又親戚が面会にきてひ孫をお披露目したりする光景が見られます。	入居前の習慣で新聞購読をしているなど、アセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握しています。コロナ禍では、主に友人との電話の取り次ぎをしていましたが、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後は、家族となじみの店で食事をしたり、自宅で外泊をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の性格や認知症状を把握し、食席を変えたり、手伝いの作業の分担を変えたりしながら、利用者同士が仲良く話している場面が多く見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養に入所された方や入院された方の面会は徐々に出来るようになって来ましたがコロナ過においては実行できませんでした。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の生活の仕方を伝えられるかたも多く、自室で自分の時間を大切にされています。また、本人の好きな事を理解し雑誌の提供や好みのテレビ番組、レクリエーションを提供しています。それらはカンファレンスや申し送りなどで職員は共有出来ています。	毎朝自身の新聞をポストまで取りに行ったり、居室に足踏み健康器具を持ち込み体操をして過ごすなど、本人が好きな事をして生活できるように支援しています。できることを一緒に、その人に合った生活ができるかに注力しながら声掛けをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族や、本人との会話の中から生活されてきた様子などを聞き、本人との会話のツールにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々に合わせた生活のリズムを大切にしています。足の浮腫の強い方には短時間の臥床を促したり、食器ふき、洗濯物のたたみ、軽い体操等その方の出来ることの把握が出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者担当が日々の観察での課題をカンファレンスに提供します。カンファレンス参加者は計画作成者を中心にモニタリング、見直しをおこないます	職員2人で利用者3人を把握し、ユニットリーダーとともに担当して情報を共有し会議を行います。ユニットごとで話し合いケアプランの見直しなどが行われます。日々の変化に気付くよう生活状況表などを活用しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に生活状況表に時系列で日々記録をします。介護計画で課題となっているケアについては実践出来たら記号をつけます。職員は日々記録を把握し情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新しいニーズが発生した時はその日の出勤職員で話し合い即、対応するようにしています。それらは生活状況表に記録され他職員も共有することになります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ過において地域との交流はできない状況でしたが、自治会主催の七夕まつりにおいてはグループホーム全利用者が短冊に願いを書いて商店街に飾って頂きました。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	原則として受診は入所前のかかりつけ医の継続となっています。身体的に受診が困難になった際には往診に切り替える事ができます。主治医に伝えたい事がある場合は受診用紙に記入し確実な情報をご家族から伝えて頂きます。	利用者の重度化で歩くことが難しくなる、受診時の待ち時間が待たなくなった場合などが続き、家族との通院が困難になった場合には訪問診療に切り替えをお願いしています。なるべく入居前からの安心したかかりつけ医で診てもらえるように配慮しています。利用者の状態の変化や状況経過は「受診状況表」へまとめ、受診時に医師に提示しています。日々の変化に気づけるよう心がけ、記録に残しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場に看護師はいませんが利用者の身体状況、バイタルは記録し往診時等に看護師、医師に状態が伝わるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ過のため病院に出向くことはなかったが。入院時には身体状況を提供し、退院時には、ソーシャルワーカーと連絡をとり、退院後の対応について情報交換を行いスムーズな介護に移行出来るよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	見学時や契約時に看取りはしない事業所であることを説明しています。重度化して行く過程で法人の特養への入所申し込みを促しています。	看取りを行わない事業所であることを、見学時から家族に伝えていきます。入居契約時にも説明し了承を得ています。重度化していく過程で、その都度会議や家族と相談をして、療養型医療施設や同法人の介護老人福祉施設などへの入所申し込みを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時、緊急時の対応の園内研修をマニュアルをさんご毎年行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災委員会を設け、各ユニットから2名選出し、毎月火災想定、地震想定等の設定で避難訓練を実施しています。新入職員は必ず参加できるよう配慮します。3ユニット合同訓練は夜間想定で年2回実施しています。3日間程度の備蓄品はあります。	場面を現実の事と捉え避難訓練を実施しています。火起こしや建物地下からの水の汲み上げ、ごはんを炊くまでを行っています。実際に白米を焚いて硬かったなどにも振り返り、すぐに改善を踏まえた避難訓練をしています。役割を細かく分け、訓練毎に担当を変えることで全てを網羅できるようにしています。廊下や入口付近など1ヶ所ではなく分散して防災頭巾やヘルメットを備えることで万が一の時にもすぐに被れるように安全に配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への話しかけは丁寧語を使い堅苦しい雰囲気にならないようにしています。個別の相談や対応時は各居室にて行っています。	利用者への声掛けに留意し、友達でもなく敬語でもなく偉そうな表現にならないようにしています。利用者の「不安」に対して、個別に居室で紙とペンを持ち、傾聴の姿勢を取り人格の尊重に努めています。フロアで生活記録を記載する際は、利用者から離れたところで行うことでプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自身の想いや要望を訴えられる方には傾聴する時間を取り、表現できない方には、なにをしたいのか問いかけながらその表情、返答から想いをくみ取るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事以外は居室で過ごしたい方、寂しくてフロアに居たい方等様々ですが本人の意思に任せています。その方にあったレクを個別に提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	御家族が本人の好きな洋服を揃えています。日に何回も着替える方もいます。また、アクセサリーを身につけたい方には、破損や紛失等がないようきを配っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材が届くシステムになっていますが行事日、誕生日等に合わせて好きなメニューに変えたり出前を取ったりしています。コロナ過の為、利用者と同テーブルでの食事は取れていない。	利用者が食事参加への役割を持ってもらえるように、食器拭きなどの声掛けをしています。専門業者による食材の献立の内容にも目を通し、繊維質なものはブレンダーで細かくしています。利用者の食べ物の認知不能や、口腔状況など、一人ひとりの飲み込みに合わせた形状にして提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	見た目食欲を損ねないように盛り付けは丁寧に行っています。噛む力が弱い方には小さくカットしたりミキサーにかけるなど工夫をしています。又小食の方には時間をかけ少量ずつ提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは付き添い、見守りで必ず実施しています。職員が仕上げ磨きをすることもあります。義歯は毎晩消毒を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを知り排泄表に記入しています。尿量に応じて誘導時が違います。	毎日の排泄リズムの把握に努めています。訴えない利用者にも気を配り、小声で声かけをし排泄を促しています。生活状況表をすぐ手に取れる場所に設置し、緊急時の情報提供にも役立てています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜を多く摂っています。またオリゴ糖やヨーグルトの提供も行い一日2回の体操や歩行運動などに取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は午後から実施しています。入浴が嫌いな方には声掛けを工夫したり時間をずらして再度誘ったりしています。季節の菖蒲湯やゆず湯は必ず行い季節感を楽しんで頂きます。	普段の入浴は午後に行っています。予定のある利用者の場合は午前に行うなど臨機応変に対応しています。入浴拒否の方には不穏状態の場面を変えるために、違う職員が声を掛けることで利用者の気分を変化させるなど工夫をしています。季節を感じるために、菖蒲湯や、家族から貰った柚子で柚子湯も必ず行なっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各利用者の睡眠サイクルを理解、把握してその方に合った時間に入床していただいています。遅くまでテレビを観ている方もいますが、意思に任せています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報提供書は常に見やすい、出しやすい状態にしてあり、職員は常に心身の状態確認をし、変化が見られる場合は、ご家族、又はかかりつけ医に相談しています。利用者に合わせて薬の粉碎をお願いするなど服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者それぞれの出きる事に合わせて家事や手仕事を依頼し、利用者が役割に張り合いを持って参加しています。Youtubeを取入れ年代や好みに合わせた新、旧の動画を楽しんでいます。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出が緩和され受診以外でも外出できるようになりました。御家族と共に家に帰り食事をされたり、親戚との交流ができたりしています。	コロナ禍前は職員と買物に出かけていましたが、店舗の閉店など環境の変化で習慣的な外出ができなくなっています。また、事前の予約などせずに当日の連絡でも自由に面会や家族との外出は可能となっています。毎月、家族と外泊する人もいます。利用者の外出歴を業務日誌に記載し把握しています。感染症が落ち着いてきたら、近隣の行事への参加も検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があれば少額のお金を所持できますが、近隣に買い物ができる店がない為、またコロナ過で外出の機会も無かった為、お金を使う機会は少なくなりました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持して毎日ご家族、親戚の方と連絡を取っている方もいます。本人の希望があれば職員が取次を行います。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者に合わせ温度調節、カーテンの開閉、光の調節を行っています。まぶしいとの声が多くカーテンはその都度調整します。廊下の壁には皆で作った作品や日頃の写真等を掲示して、話題づくりになっています。	共用空間は整理整頓を心がけ、利用者が気にならないよう刺激のあるものには布を被せるなどの配慮をしています。本棚などの高さを利用者の目線にすることで自由に手に取ることができるようにしています。食後などの話題提供に利用しています。利用者同士が昔話などで会話を楽めるようにソファも設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同士でソファで語ったり、テレビ観賞したりする光景は多く見られます。また一人が好みの方は自室でゆっく休んだり、フロアで雑誌を読んだりテレビを見たりされてゆったりと過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使い慣れた家具や大切にされているもの等持参されています。また、家族の写真や自作の作品等居室に飾り楽しまれています。	利用者の日々の暮らしを安心して暮らせるために思い出の品を飾っています。思い出の品は気分によって家族が入れ替えをしたり、利用者や居室担当者が一緒に掃除をしながら模様替えもしています。一緒に行くことで、利用者の趣味や好みの把握し利用者の理解を深めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを多く設置しており利用者の安全を考慮しています。自室やトイレがわからない方の為に案内の紙を貼ってあり混乱なく過ごせるようにしています。		

事業所名	グループホーム幸園
ユニット名	なでしこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念として「その人の想いや行動を止めない」を掲げ穏やかな日常であるよう介護を行っております。ユニット会議等で常に原点に立ち返る事ができるよう話し合います。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ過において地域との交流は進みませんでした。自治会より要請があり七夕の短冊に利用者の願いを書き商店街に飾って頂きました。大変好評でした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学者の対応時、ご家族からの相談に乗ったり、サービスの利用などその方にあった施設の提示など行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の御家族、自治会長、民生委員等の出席を頂き、各ユニットからの状況報告や利用者の入退所報告、職員の入退職等の報告を行い参加者からのご意見、助言等頂いております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム部会で行政と年1回グループホームの現状、要望等を話し合う機会があり管理者が参加しております。市内には多くのグループホームがあり待機者ほとんどいない現状がある。又職員の募集をしても応募が無い等厳しい現実を伝えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を中心に3ヶ月に1回の会議を開催し、身体拘束の兆候は無いか入所者の状態を報告しながら確認を行っています。各ユニットでは拘束委員会が中心になって年2回のマニュアルでの確認、具体的拘束例等で研修を実施しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会はニュースになった虐待の事例の検討や日常介護の中での兆しが無いか、どんな時にケアへの影響が出るのか等年2回の園内研修で職員に理解と周知を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者があります。後見人との連絡をスムーズにできるよう日頃より気を配っております。運営推進委員会で高齢者相談課の肩から成年後見制度について学ぶ機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	当グループホームの方針、職員配置状況、生活介護対応等細部まで説明し納得していただきます。改定の際には書面にて説明し同意を頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部評価の家族アンケートを参考に改善した点。預り金の内訳を毎月確認していただくようにしました。それまでは入金時のみの確認だった為。コロナ過の際は郵送にて実施し現在は面会時に行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回、法人で人事考課が実施されている。その際各自が法人への要望等を記入することができる。事業所への要望等は、毎月のユニット会議で要望事項を伝える事ができる。事例、公休、有休の取り方、人員不足を総務に訴え説明を聞いた。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人で人事考課を年2回実施しています。チャレンジシートでは各自が年間の目標を立て、達成されると評価され昇給、賞与に反映されます。介護福祉士、介護支援専門員の資格取得者にはそれぞれ資格手当がつき、職員は資格修得を目指しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ過の影響でウェブで研修に参加することが出来ています。また、本年は実践者研修に年3名の受講を計画し現在2名が終了予定です。無資格の新入職員は初任者研修を受講しました。現場では各シフト毎に新人を育てる仕組みになっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内の法人で組織されたグループホーム部会があり年4回の部会を開催しています。本年は介護職員の確保、入所者の確保について意見交換がありました。他、施設の状況を聞き、参考にしたい事や助言を聞くことができます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	御家族、ケアマネジャー、利用されているサービス事業者から情報収集を行い不安のない生活を提供できるよう職員間の連携を取りながら本人と向き合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	在宅での生活が困難になった状況聞き、グループホームで生活することがご家族の負担軽減になり、利用者とも良い関係を築き上げていける事など話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者との会話を重要視しており会話の中から今、何を必要としているのかを見極めてカンファレンスを行い対応を考えていくシステムになっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事を日々の生活の中で見極め、共に暮らし、助け合っていく関係を作りあげていきます。その人が出来る手伝いをそれぞれに見定めて作業の分担を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ過では面会時の対面であったが5類になり外出、外泊が可能になったためご家族との関りも多くなり、共に過ごす時間が多くなっています。月に2回、自宅で食事を楽しむ時間を設けている方もいます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日々の活動や行事の様子を動画でご家族に送って感想を頂いたり、外出先でいつもの店で食事をしたり出来ています。又親戚が面会にきてひ孫をお披露目したりする光景が見られます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の性格や認知症状を把握し、食席を変えたり、手伝いの作業の分担を変えたりしながら、利用者同士が仲良く話している場面が多く見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養に入所された方や入院された方の面会は徐々に出来るようになって来ましたがコロナ過においては実行できませんでした。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自室で過ごされる方がいますが本人の意思に任せています。皆で工作をしたり、歌ったりのレクリエーションの時は声掛けをして参加を促しています。レクリエーションの好みは職員は把握出来ています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族や、本人との会話の中から生活されてきた様子などを聞き、本人との会話のツールにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々に合わせた生活のリズムを大切にしています。足の浮腫の強い方には短時間の臥床を促したり、食器ふき、洗濯物のたたみ、軽い体操等その方の出来ることの把握が出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者担当が日々の観察での課題をカンファレンスに提供します。カンファレンス参加者は計画作成者を中心にモニタリング、見直しをおこないます		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に生活状況表に時系列で日々記録をします。介護計画で課題となっているケアについては実践出来たら記号をつけます。職員は日々記録を把握し情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新しいニーズが発生した時はその日の出勤職員で話し合い即、対応するようにしています。それらは生活状況表に記録され他職員も共有することになります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ過において地域との交流はできない状況でしたが、自治会主催の七夕まつりにおいてはグループホーム全利用者が短冊に願いを書いて商店街に飾って頂きました。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	原則として受診は入所前のかかりつけ医の継続となっています。身体的に受診が困難になった際には往診に切り替える事ができます。主治医に伝えたい事がある場合は受診用紙に記入し確実な情報をご家族から伝えて頂きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場に看護師はいませんが利用者の身体状況、バイタルは記録し往診時等に看護師、医師に状態が伝わるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ過のため病院に出向くことはなかったが入院時には身体状況を提供し、退院時には、ソーシャルワーカーと連絡をとり、退院後の対応について情報交換を行いスムーズな介護に移行出来るよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	見学時や契約時に看取りはしない事業所であることを説明しています。重度化して行く過程で法人の特養への入所申し込みを促しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時、緊急時の対応の園内研修をマニュアルをさんご毎年行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災委員会を設け、各ユニットから2名選出し、毎月火災想定、地震想定等の設定で避難訓練を実施しています。新入職員は必ず参加できるよう配慮します。3ユニット合同訓練は夜間想定で年2回実施しています。3日間程度の備蓄品はあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への話しかけは丁寧語を使い堅苦しい雰囲気にならないようにしています。個別の相談や対応時は各居室にて行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自身の想いや要望を訴えられる方には傾聴する時間を取り、表現できない方には、なにをしたいのか問いかけながらその表情、返答から想いをくみ取るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事以外は居室で過ごしたい方、寂しくてフロアーに居たい方等様々ですが本人の意思に任せています。その方にあったレクを個別に提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	御家族が本人の好きな洋服を揃えてくれています。日に何回も着替える方もいます。また、アクセサリを身につけたい方には、破損や紛失等がないようきを配っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材が届くシステムになっていますが行事日、誕生会等に合わせて好きなメニューに変えたり出前を取ったりしています。コロナ過の為、利用者と同テーブルでの食事は取れていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	見目で食欲を損ねないように盛り付けは丁寧に行っています。噛む力が弱い方には小さくカットしたりミキサーにかけるなど工夫をしています。又小食の方には時間をかけ少量ずつ提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは付き添い、見守りで必ず実施しています。職員が仕上げ磨きをすることもあります。義歯は毎晩消毒を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを知り排泄表に記入しています。尿量に応じて誘導時が違います。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜を多く摂っています。またオリゴ糖やヨーグルトの提供も行い一日2回の体操や歩行運動などに取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は午後から実施しています。入浴が嫌いな方には声掛けを工夫したり時間をずらして再度誘ったりしています。季節の菖蒲湯やゆず湯は必ず行い季節感を楽しんで頂きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各利用者の睡眠サイクルを理解、把握してその方に合った時間に入床していただいています。遅くまでテレビを観ている方もいますが、意思に任せています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報提供書は常に見やすい、出しやすい状態にしてあり、職員は常に心身の状態確認をし、変化が見られる場合は、ご家族、又はかかりつけ医に相談しています。利用者に合わせて薬の粉砕をお願いするなど服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者それぞれの出きる事に合わせて家事や手仕事を依頼し、利用者が役割に張り合いを持って参加しています。Youtubeを取入れ年代や好みに合わせた新、旧の動画を楽しんでいます。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出が緩和され受診以外でも外出できるようになりました。御家族と共に家に帰り食事をされたり、親戚との交流ができていたりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があれば少額のお金を所持できますが、近隣に買い物ができる店がない為、またコロナ過で外出の機会も無かった為、お金を使う機会は少なくなりました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持して毎日ご家族、親戚の方と連絡を取っている方もいます。本人の希望があれば職員が取次を行います。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者に合わせ温度調節、カーテンの開閉、光の調節を行っています。まぶしいとの声が多くカーテンはその都度調整します。廊下の壁には皆で作った作品や日頃の写真等を掲示して、話題づくりになっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同士でソファで語ったり、テレビ観賞したりする光景は多く見られます。また一人が好みの方は自室でゆっく休んだり、フロアで雑誌を読んだりテレビを見たりされてゆったりと過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使い慣れた家具や大切にされているもの等持参されています。また、家族の写真や自作の作品等居室に飾り楽しまれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを多く設置しており利用者の安全を考慮しています。自室やトイレがわからない方の為に案内の紙を貼ってあり混乱なく過ごせるようにしています。		

事業所名	グループホーム幸園
ユニット名	たんぼぼ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念として「その人の想いや行動を止めない」を掲げ穏やかな日常であるよう介護を行っております。ユニット会議等で常に原点に立ち返る事ができるよう話し合います。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ過において地域との交流は進みませんでした。自治会より要請があり七夕の短冊に利用者の願いを書き商店街に飾って頂きました。大変好評でした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学者の対応時、ご家族からの相談に乗ったり、サービスの利用などその方にあった施設の提示など行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の御家族、自治会長、民生委員等の出席を頂き、各ユニットからの状況報告や利用者の入退所報告、職員の入退職等の報告を行い参加者からのご意見、助言等頂いております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム部会で行政と年1回グループホームの現状、要望等を話し合う機会があり管理者が参加しております。市内には多くのグループホームがあり待機者ほとんどいない現状がある。又職員の募集をしても応募が無い等厳しい現実を伝えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を中心に3ヶ月に1回の会議を開催し、身体拘束の兆候は無いか入所者の状態を報告しながら確認を行っています。各ユニットでは拘束委員会が中心になって年2回のマニュアルでの確認、具体的拘束例等で研修を実施しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会はニュースになった虐待の事例の検討や日常介護の中での兆しが無いか、どんな時にケアへの影響が出るのか等年2回の園内研修で職員に理解と周知を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者があります。後見人との連絡をスムーズにできるよう日頃より気を配っております。運営推進委員会で高齢者相談課の肩から成年後見制度について学ぶ機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	当グループホームの方針、職員配置状況、生活介護対応等細部まで説明し納得していただきます。改定の際には書面にて説明し同意を頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部評価の家族アンケートを参考に改善した点。預り金の内訳を毎月確認していただくようにしました。それまでは入金時のみの確認だった為。コロナ過の際は郵送にて実施し現在は面会時に行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回、法人で人事考課が実施されている。その際各自が法人への要望等を記入することができる。事業所への要望等は、毎月のユニット会議で要望事項を伝える事ができる。事例、公休、有休の取り方、人員不足を総務に訴え説明を聞いた。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人で人事考課を年2回実施しています。チャレンジシートでは各自が年間の目標を立て、達成されると評価され昇給、賞与に反映されます。介護福祉士、介護支援専門員の資格取得者にはそれぞれ資格手当がつき、職員は資格修得を目指しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ過の影響でウェブで研修に参加することが出来ています。また、本年は実践者研修に年3名の受講を計画し現在2名が終了予定です。無資格の新入職員は初任者研修を受講しました。現場では各シフト毎に新人を育てる仕組みになっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内の法人で組織されたグループホーム部会があり年4回の部会を開催しています。本年は介護職員の確保、入所者の確保について意見交換がありました。他、施設の状況を聞き、参考にしたい事や助言を聞くことができます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	御家族、ケアマネジャー、利用されているサービス事業者から情報収集を行い不安のない生活を提供できるよう職員間の連携を取りながら本人と向き合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	在宅での生活が困難になった状況聞き、グループホームで生活することがご家族の負担軽減になり、利用者とも良い関係を築き上げていける事など話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者との会話を重要視しており会話の中から今、何を必要としているのかを見極めてカンファレンスを行い対応を考えていくシステムになっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事を日々の生活の中で見極め、共に暮らし、助け合っていく関係を作りあげていきます。その人が出来る手伝いをそれぞれに見定めて作業の分担を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ過では面会時の対面であったが5類になり外出、外泊が可能になったためご家族との関りも多くなり、共に過ごす時間が多くなっています。月に2回、自宅で食事を楽しむ時間を設けている方もいます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日々の活動や行事の様子を動画でご家族に送って感想を頂いたり、外出先でいつもの店で食事をしたり出来ています。又親戚が面会にきてひ孫をお披露目したりする光景が見られます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の性格や認知症状を把握し、食席を変えたり、手伝いの作業の分担を変えたりしながら、利用者同士が仲良く話している場面が多く見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養に入所された方や入院された方の面会は徐々に出来るようになって来ましたがコロナ過においては実行できませんでした。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自室で過ごされる方はなくほとんどフロアでテレビを観たり、工作をしたりして過ごされます。ピアノが得意な方に伴奏していただきみんなで歌うととても喜ばれます。入浴時マンツーマン対応になるのじっくりと聞くようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族や、本人との会話の中から生活されてきた様子などを聞き、本人との会話のツールにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々に合わせた生活のリズムを大切にしています。足の浮腫の強い方には短時間の臥床を促したり、食器ふき、洗濯物のたたみ、軽い体操等その方の出来ることの把握が出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者担当が日々の観察での課題をカンファレンスに提供します。カンファレンス参加者は計画作成者を中心にモニタリング、見直しをおこないます。カンファレンスは月1回のユニット会議時に行いほぼ全員の職員が参加します。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に生活状況表に時系列で日々記録をします。介護計画で課題となっているケアについては実践出来たら記号をつけます。職員は日々記録を把握し情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新しいニーズが発生した時はその日の出勤職員で話し合い即、対応するようにしています。それらは生活状況表に記録され他職員も共有することになります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ過において地域との交流はできない状況でしたが、自治会主催の七夕まつりにおいてはグループホーム全利用者が短冊に願いを書いて商店街に飾って頂きました。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	原則として受診は入所前のかかりつけ医の継続となっています。身体的に受診が困難になった際には往診に切り替える事ができます。主治医に伝えたい事がある場合は受診用紙に記入し確実な情報をご家族から伝えて頂きます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場に看護師はいませんが利用者の身体状況、バイタルは記録し往診時等に看護師、医師に状態が伝わるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ過のため病院に出向くことはなかったが。入院時には身体状況を提供し、退院時には、ソーシャルワーカーと連絡を取り、退院後の対応について情報交換を行いスムーズな介護に移行出来るよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	見学時や契約時に看取りはしない事業所であることを説明しています。重度化して行く過程で法人の特養への入所申し込みを促しています。療養型病院に入院される方もいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時、緊急時の対応の園内研修をマニュアルをさんご毎年行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災委員会を設け、各ユニットから2名選出し、毎月火災想定、地震想定等の設定で避難訓練を実施しています。新入職員は必ず参加できるように配慮します。3ユニット合同訓練は夜間想定で年2回実施しています。3日間程度の備蓄品はあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への話しかけは丁寧語を使い堅苦しい雰囲気にならないようにしています。個別の相談や対応時は各居室にて行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自身の想いや要望を訴えられる方には傾聴する時間を取り、表現できない方には、なにをしたいのか問いかけながらその表情、返答から想いをくみ取るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事以外は居室で過ごしたい方、寂しくてフロアーに居たい方等様々ですが本人の意思に任せています。その方にあったレクを個別に提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	御家族が本人の好きな洋服を揃えてくれています。日に何回も着替える方もいます。また、アクセサリを身につけたい方には、破損や紛失等がないようきを配っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材が届くシステムになっていますが行事日、誕生会等に合わせて好きなメニューに変えたり出前を取ったりしています。食器拭きやお盆拭きなど手伝って頂いています。コロナ過の為、利用者と同テーブルでの食事は取れていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	見目で食欲を損ねないように盛り付けは丁寧に行っています。噛む力が弱い方には小さくカットしたりミキサーにかけるなど工夫をしています。又小食の方には時間をかけ少量ずつ提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは付き添い、見守りで必ず実施しています。職員が仕上げ磨きをすることもあります。義歯は毎晩消毒を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを知り排泄表に記入しています。尿量に応じて誘導時間が違います。また、その方の動作観察からトイレに行きたいかを察し誘導することで失敗を減らす事が出来ています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜を多く摂っています。またオリゴ糖やヨーグルトの提供も行い一日2回の体操や歩行運動などに取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は午後から実施していますが時には午前中に実施することもあります。入浴が嫌いな方には声掛けを工夫したり時間をずらして再度誘ったりしています。季節の菖蒲湯やゆず湯は必ず行い季節感を楽しんで頂きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各利用者の睡眠サイクルを理解、把握してその方に合った時間に入床していただいています。遅くまでテレビを観ている方もいますが、意思に任せています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報提供書は常に見やすい、出しやすい状態にしてあり、職員は常に心身の状態確認をし、変化が見られる場合は、ご家族、又はかかりつけ医に相談しています。利用者に合わせて薬の粉砕をお願いするなど服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者それぞれの出きる事に合わせて家事や手仕事を依頼し、利用者が役割に張り合いを持って参加しています。Youtubeを取入れ年代や好みに合わせた新、旧の動画を楽しんでいます。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出が緩和され受診以外でも外出できるようになりました。御家族と共に家に帰り食事をされたり、親戚との交流ができたりしています。毎月自宅への外泊をされる方もいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があれば少額のお金を所持できますが、近隣に買い物ができる店がない為、またコロナ過で外出の機会も無かった為、お金を使う機会は少なくなりました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持して毎日ご家族、親戚の方と連絡を取っている方もいます。本人の希望があれば職員が取次を行います。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者に合わせ温度調節、カーテンの開閉、光の調節を行っています。まぶしいとの声が多くカーテンはその都度調整します。廊下の壁には皆で作った作品や日頃の写真等を掲示して、話題づくりになっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同士でソファで語ったり、テレビ観賞したりする光景は多く見られます。また一人が好みの方は自室でゆっく休んだり、フロアで雑誌を読んだりテレビを見たりされてゆったりと過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使い慣れた家具や大切にされているもの等持参されています。また、家族の写真や自作の作品等居室に飾り楽しまれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを多く設置しており利用者の安全を考慮しています。自室やトイレがわからない方の為に案内の紙を貼ってあり混乱なく過ごせるようにしています。		

2023年度

事業所名 グループホーム幸園

作成日： 2023年 11月 8 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I-4	コロナ5類移行後の委員会への参加者は、家族が主になっている。	メンバーになっている、行政職員や地域の方々に、もっと参加していただく。	家族以外のメンバーへ、開催のお知らせをする回数を増やしていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月